

日本語学会2025年度春季大会 大会報告

2025/05/28

俣平洸希

東京外国語大学 博士前期課程

目次

大会概要

口頭発表の紹介①

口頭発表の紹介②

感想

今後の大会予定

大会概要

日本語学会2025年度春季大会

- ・ 2025年5月10日(土)～11日(日)
- ・ 名古屋大学 東山キャンパス
- ・ 口頭発表/ポスター発表/シンポジウム
- ・ 懇親会、会員総会・大会式典

大会概要

I 日目：口頭発表（4×5）

A会場：現代語・コーパス

B会場：通時的研究

C会場：通時的研究(漢語・漢文)

D会場：文体・方言

大会概要

2日目：ワークショップ（4）

- A. 介護用語の見直しを目指して
ー介護のことばの難解さと未整理の現状からー
- B. エゴフォリシティーと体験の日本語文法
- C. ことばの技巧を外から拓く
ー会話・物語・マンガにおける言語使用ー
- D. 東北方言のヴォイスから考える日本語の述語膠着性
ー伝統的な国語学と日本語学、
そして理論言語学との交流の視座からー

大会概要

2日目：ポスター発表（8）

オープン学生セッション（8）

シンポジウム：「会話文」とは何か

…そもそも文章中になぜ「会話文」が引用されるのか、あるいは「会話文」は「地の文」とどのように結び付けられて1つの文章を構成するのか、また、「会話文」と「地の文」の間に、いわゆる「心話文」や「間接話法」はどのように位置付けられるのか…（シンポジウム概要より引用）

口頭発表の紹介

- ① 文末名詞文「気だ」の構文としての意味
ー「観察」という文法概念の精緻化に向けてー

A-4 阿久澤弘陽(京都大学)

- ② 思考動詞と共起する「NPのこと」の
使用メカニズム ー「考える」を手掛かりにー

A-1 徐筱琦(関西学院大学学生)

紹介①：「気だ」構文

問題意識

意図を表す文末名詞文の意味記述が不十分

主旨

- ・ 文末名詞文「気だ」の意味的特徴に「観察」という心内行動が関与していることを指摘
- ・ 「観察」という概念の精緻化

紹介①：「気だ」構文

分析(Ⅰ) 「気だ」の意味的特徴

① 人称制限とその例外

(1)a. 私は転職する{*気/つもり}です。

b. 太郎は転職する{気/つもり}です。

- ・話し手自身の意図を説明できない(=周辺的)
- ・安達(1999):認識のモダリティ「推測」で説明

紹介①：「気だ」構文

分析(1) 「気だ」の意味的特徴

① 人称制限とその例外

- ・ 人称制限は特定の条件下で解除される
(その場合、「推測」として説明しにくい)

(3)a. 私は、その時、実は転職する気でした。

(4)a. 私は転職する気でいます。

(5) (私は)死ぬ気で頑張ります。

紹介①：「気だ」構文

分析(1) 「気だ」の意味的特徴

②「観察」という心内行動の関与

大江(2021):「観察」の有効性

(6) {?私/若者}はコンビニを利用しがちだ。

(7) 私はついコンビニを利用してしまいがちだ。

△事態が複数回生起している

○話し手が事態の生起を複数回観察している

紹介①：「気だ」構文

分析(Ⅰ) 「気だ」の意味的特徴

②「観察」という心内行動の関与

「気だ」の意味的特徴

態度保持者の意図を表す命題が、話し手の

観察によって得られたことを表す

(10) あ、見てください！

犯人が逃げる{気/?つもり}です！（眼前事態の描写）

紹介①：「気だ」構文

分析(Ⅰ) 「気だ」の意味的特徴

③命題の真偽に対する主語の認識を示す「気だ」

(13)a. {私/若者}は京都大学に受かる気でいる。

b. {私/若者}はもうゲームに勝った気でいた。

= 「受かっていると思っている (≠受かるつもりだ)」

(5) (私は) 死ぬ気で頑張ります。→ 例外

紹介①：「気だ」構文

分析(2) 「観察」の精緻化

① 知覚に準ずる「観察」との差異

岩崎(1994)など：従属節のル形に関する考察

・時間的に先行する従属節がル形を許容

(18) 花子が泣くので、太郎はアメを与えてやった。

→ 「知覚一事態」間の時間的同時性

(従属節事態の観察時 = 主節事態の成立時)

紹介①：「気だ」構文

分析(2) 「観察」の精緻化

① 知覚に準ずる「観察」との差異

知覚に準ずる「観察」によって現象を説明可能

←→過去形やテイル形については不可

(3)私は、その時、実は転職する気でした。

→当研究における「観察」とは別物

(現実世界での「観察」←→認知的な「観察」)

紹介①：「気だ」構文

分析(2) 「観察」の精緻化

② 証拠性モダリティとの関連性

「外部に存在する情報を観察したり…することを
通じて、その認識が成立していることを表す形式」

(日本語記述文法研究会 2003)

→ (❶と同じく) 過去形について説明不可

*私は、実は転職する{みたい/よう}でした。

紹介①：「気だ」構文

分析(2) 「観察」の精緻化

③階層的モダリティ論との関連

「気だ」を疑似/二次的モダリティ形式とすると、
“観察（命題に対する話し手の判断）”の対象と
しての命題に“意図”が含まれなければならない

→命題とモダリティを階層的に扱う立場では、
「気だ」という形式の意味を正確に捉えがたい

紹介①：「気だ」構文

まとめ

- ・「気だ」構文と「観察」という心内行動の関与
- ・「観察」と既存概念の比較、精緻化

今後の課題

- ・ 人称制限を有する意図を表す述語
（「意向だ/料簡だ/魂胆だ/狙いだ/...」）
→ 文法カテゴリーとして心的メカニズムを分析

口頭発表の紹介

- ① 文末名詞文「気だ」の構文としての意味
ー「観察」という文法概念の精緻化に向けてー
A-4 阿久澤弘陽(京都大学)

- ② 思考動詞と共起する「NPのこと」の
使用メカニズム ー「考える」を手掛かりにー
A-1 徐筱琦(関西学院大学学生)

紹介②：「のこと」+「考える」

問題意識

「考える」のような思考動詞と名詞の“コト性”

(1) 太郎は花子{?? ϕ / のこと}を考えている。

名詞の“コト性”の無さと「のこと」の生起には
常に相関があるわけではない

(5) 出産すれば一線を外されるの？警告に
聞こえ、子どもを考えることは先延ばしに...

紹介②：「のこと」+「考える」

問題意識

高橋(2007):「のこと」の付加 → 指示範囲の拡大

湯本(2015):「考える」の目的語は“コト”

(7) {方法/アイディア/献立/例}を考える。

- ・ 指示範囲の拡大／「コト的解釈」で
すべての「のこと」の解釈を説明できるか？

→ クオリア構造の理論を用いた再解釈・分析

紹介②：「のこと」+「考える」

クオリア構造について

生成語彙論(Generative Lexicon)
Pustejovsky (1995)

名詞(x)の語彙情報

- ・形式クオリア：「xは何か」
- ・構成 //：「xは何でできているのか」
- ・目的 //：「xは何のためにあるか」
- ・主体 //：「xはどのようにできたか」

→コト的解釈の引き出しやすさに関連

紹介②：「のこと」+「考える」

クオリア構造による先行研究の再解釈

例：「方法（を考える）」

- ・形式：抽象物
- ・構成：誰が、いつ、…
- ・目的：[] $\times$ で目的を達成する
- ・主体：[] y が[] $\times$ を生み出す

→“コト性”を要求する「考える」と結び付くことで
クオリア構造に踏み込んだ解釈が生じる

紹介②：「のこと」+「考える」

先行研究の問題点

「コト的解釈」の観点のみでは完全な説明ができない

- (10) a. ...ダンスにおける音楽を考えるフォーラムも開く。
b. 幅広い視点から音楽を考える坂本の視点に...
c. ...生活と絡め、音楽のことを考える聴衆を育てたい」

b/c はいずれも「音楽に関することについて考える」

→「のこと」の生起条件について再考

紹介②：「のこと」+「考える」

「のこと」の生起条件

- (11) ...監督から「続ける理由(?? のこと)を考えてほしい」...
- (12) ...交際した女性と結婚(?? のこと)を考え、父のことを...
- (13) 幅広い視点から音楽(のこと)を考える坂本の視点に...
- (14) ...お金(のこと)を考える前に医者にかかれる世の中...

「NPを考える」構文の多義性に応じて

「のこと」の付加について容認度が変化 → なぜ？

紹介②：「のこと」+「考える」

「のこと」の生起条件

(11) 続ける理由を考える

→理由が何であるかについて考える

(12) 女性と結婚を考える

→結婚するということを決める

名詞(x)の形式クオリア「xは何か」に注目

NPの指示対象は「NP」そのもの = 「のこと」不可

紹介②：「のこと」+「考える」

「のこと」の生起条件

- (13) 幅広い視点から音楽(のこと)を考える
→音楽をどのように表現するか考える
- (14) お金(のこと)を考える
→金欠による影響や負担を考慮する

名詞(x)の目的クオリア「xは何のためにあるか」に注目
NPの指示対象は「NP」そのものではない

紹介②：「のこと」+「考える」

「のこと」の有無

(10) b. 幅広い視点から音楽を考える坂本の姿勢に...

→音楽の役割や機能について指示

c. 音楽のことを考える聴衆を育てたい。

→音楽にまつわる事柄(文化/歴史/...)について指示

どちらもNPそのものを指示するわけではないが、

bは「音楽」の語彙情報の範疇に含まれるものを指示

紹介②：「のこと」+「考える」

まとめ

思考動詞「考える」と共起する「のこと」について、

NPの形式クオリアに注目する場合

→「NPのこと」は不可、「NP」のみ

今後の課題

- ・他の動詞構文における一般化

紹介②：「のこと」+「考える」

質疑応答

- ・「クオリア構造とは何か」が共有されていない
- ・「思考動詞」について一般化が可能なのか
(例:「思う」はヲ格を取らない)
- ・なぜ(動詞の多義性ではなく)クオリア構造に注目する必要があるのか

感想

- ・ 研究の前提（方法論、内省など）を共有することの重要性
- ・ 共同研究の面白さ

今後の大会予定

2025年度秋季大会

- ・ 2025年10月25日(土)～26日(金)
- ・ オンライン

2026年度春季大会

- ・ 未定
- ・ 近畿大学

日本語学会2025年度春季大会 大会報告

2025/05/28

俣平洸希

東京外国語大学 博士前期課程

ご清聴ありがとうございました。